

達成度：H22.3.31(見込)の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

学校教育課の目標（平成21年度）自己評価書

学校教育課長 高野松男

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p>1 町立学校の学校運営への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポート指導員等を各学校に配置し、個に応じた指導を支援します。 ・介助員の配置等により、特別支援教育の充実を図ります。 ・ALTを派遣し、小学校の英語活動の充実を支援します。 ・学校図書館アシスタントの配置等により、学校図書館の充実に努めます。 ・豊かな心を育むC. T. Sプラン事業補助金を交付し、各学校の特色ある教育活動を支援します。 ・地域の防犯ボランティア団体の協力やスクールガードリーダーの活動等により児童生徒の安全確保を図り、併せて安全教育を推進します。 ・学習指導要領の改訂に伴う移行措置について、学校への周知と適切な運用に向け支援を行います。 ・新しい教育課題に関する情報を収集し、学校への周知と適切な運用・活用を支援します。 	<p>5</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポート指導員並びにスクール支援員を7名配置し、教育相談や少人数指導等、個に応じた指導の充実が図られた。 ・教員の補助を行う介助員やスクール支援員が配置され、指導体制が充実した。 ・小学校への派遣回数を増やすことができたが、新学習指導要領の実施に向け、更なる充実が必要である。 ・学校図書館の機能がより高まり、児童生徒にとって活用しやすい学校図書館となっている。 ・各学校で補助金を活用し、それぞれ特色ある教育活動に取り組んだ。 ・地域の方の協力もあり、大きな事件、事故の発生はみられなかった。 ・小・中教委連絡会や各研修会、様々な通知等を通じて周知、支援を図った。 ・各研修会や会議で教職員に情報を伝えるよう務めた。

<p>2 酒々井町ならではの教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育を各校の学校経営の柱の一つに据え、温かい人間関係づくりに努めます。 ・教職員の特色ある教育活動支援事業補助金を交付し、教職員の創意工夫ある教育活動を支援します。 ・町内3校という利点を生かし、小中連携を推進します。 ・社会科副読本の改訂作業を進めます。 <p>3 教育相談事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校適応専門相談員の配置により、不登校対策の充実を図ります。 (長欠の出現率を抑え、長欠者の学校・学級復帰を支援します。) ・各学校の適応指導委員会(教育相談部会)に職員を派遣し、適応指導の共通理解に努めます。 <p>4 教職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研修会の開催や、各学校の研究会における指導助言を通して、指導技術の向上に努めます。 ・教職員の綱紀粛正について、その指導に努めます。 ・目標申告制度と業績評価制度の適切な運営に努めます。 <p>5 教育条件の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材備品、学校図書に充実を努めます。 ・学校予算の確保に努めます。 ・酒々井小学校遠距離通学者のためのスクールバスの運行を行います。 	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校とも人権・同和教育を学校経営の重点に位置づけ全体として温かみのある人間関係が築かれている。 ・補助金は有効に活用されたが、本事業に対する教職員の意識が、全体としてまだ十分ではない。 ・様々な取組が、児童生徒や教員の間で積極的に行われている。 ・編集会議を5回開催し、取材活動や原稿の執筆に着手した。 ・昨年度同様、長欠者の出現率が低くなったことは大きな成果である。 ・各学校及び教育委員会が共通理解を図る大事な機会となっている。 ・教職員対象の研修会を計画的に実施するとともに、(今年度は新たに、組織マネジメント研修を行った。)様々な機会に指導主事等が学校を訪問し、指導助言を行った。 ・全職員にレポート提出を求めたり、モラールアップ委員会代表者会議を開催するなどして意識を高めた。 ・各学校において適切に運営された。 ・新学習指導要領の実施に向け、今後も備品を整備していく必要がある。図書の整備率は上がってきている。
--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・新就学児童の防犯ブザー購入に際して、半額を補助します。 ・適切な就学援助に努めます。 	<p>5 4</p>	
<p>6 チャレンジ目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席児童生徒への支援、またその保護者、学校への支援を行い、長期欠席児童生徒が学校・学級復帰できるよう努めます。 	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校適応専門相談員や学校教育課指導主事と教員等が連携を図り、3名の生徒を学校に復帰させることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の図書整備率100%に向け取り組んでいきます。 	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徐々に整備率が上がってきており、100%を越えた学校もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・酒々井町小中連携推進協議会が進める「小中連携指導5項目」に掲げる児童生徒の姿 (①挨拶をすることができる ②掃除をすることができる ③時間を守ることができる ④人の話を聞くことができる ⑤自分の考えを話すことができる)を達成できるよう取り組んでいきます。 	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携推進協議会等で、3校の教員が共通理解を図りながら、各学校で取り組んでいる。